基本計画

第６章

重点戦略プロジェクト

第６章　重点戦略プロジェクト

１　『みどりの環』経済戦略ビジョン ～しあわせ倍増プラン～

趣　旨

『みどりの環』経済戦略ビジョンを、本市の「強み」である農村・農林業資源を最大限に活用することで地域内の経済循環を創出し、市民所得の向上をはじめ、かつての心豊かな暮らしや美しいふるさとを取り戻すための「重点戦略プロジェクト構想」として位置付けます。

概　念

今から50年程前のふるさとを思い起こすとき、そこには、四季の移り変わりを感じながら山々や田園を見つめ、「農」を中心とした質素な暮らしを営む先人の姿があり、市街地にあっては、「農」による収入が「商」を支え、さらには「商」の活気が「地域の賑わい」を生み出すなど、「農」を起点とした経済循環が形成・維持されていました。

高度経済成長やバブルと呼ばれた好況期を経て、私たちは、経済的な豊かさとモノにあふれた暮らしを実感していますが、その反面、手入れされた野山や商店街の賑わい、人々の会話や子どもたちの笑い声など、かけがえのない「ふるさとの情景」は、遠い記憶の中に消え去ろうとしています。

まちづくりは、「過去の歴史を顧みながら、50年、あるいは100年先の姿を思い描き進めるべきもの」とされていますが、「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る」のとおり、本市の将来像やその実現の鍵は、地域の歴史と資源の中に温存されていることを改めて認識する必要があります。

単に50年前の暮らしに戻ろうとするのではなく、地域振興の方向を「失ったものを取り戻すことにより地域経済が循環・発展する仕組みづくり」に転換し、「自立し、共に生きる、美しい日本のふるさと」の実現・再生に向け、この「プロジェクト構想」を推進するものとします。

現　状

（１）農業

本市の農業は、農家戸数、主要作物等の生産額ともに減少が続いており、過疎化・高齢化の進行と相まって、崩壊の危機を迎えているといっても過言ではありません。

農産物についても、コメ、果樹、野菜等の原材料に加え、漬物、こんにゃく、餅といった加工食品が人気を集めていますが、“庄原ブランド”と呼ばれるものは数少なく、利益の向上や高齢者・女性の能力活用の面からも、ブランドの確立や加工・販売など、付加価値を高めるシステムの充実が求められています。

（２）林業

本市の林業は、平成４(1992)年度の生産額6,771,000千円が、平成14(2002)年度1,419,000千円と大きく減少しており、維持・持続することさえ困難な状況に至っています。

（３）観光

本市を訪れる観光客は、増加傾向で推移し、平成17(2005)年度の総観光客数は、地元客の42万1千人を加え、262万9千人となっていますが、観光消費額は、総計6,047,000千円（観光客１人当たり2,300円）に留まっています。

観光の形態は、かつての団体旅行、名所・旧跡めぐり型から、個人や家族、体験・ふれあい型へと移行・多様化しており、本市のような地域資源を活かした自然体験型への需要は、今後も増加が見込まれています。

課　題

現在、国の農業政策は、一定規模の認定農業者・集落法人を「担い手」に限定し、さらには特定作物への集中支援にその基軸を移行しようとしており、小規模な兼業農家が大半を占める本市においては、一層、危機感を募らせる状況にあります。

こうした中、農林業に関する潜在的な知識や技術、経験などを集め、地域の力として発揮することで、他に頼らない「自立した庄原の農業」の確立が求められています。

観光は、「国の光を観る」ことを意味し、「地域の暮らしを見つめる」とともに、その地に暮らす人々が「自ら光を示す」ことが原点とされています。

大型リゾート施設や全国に知られる観光資源がない本市にあっても、四季おりおりに彩りを変える里山の中には、自然との共生によって育まれた暮らしや文化があり、農村・農林業を基盤とするこれらの資源を改めて見つめ直し、本来の観光資源である「地域の光」として内外に示すことが重要となっています。

こうした取り組みの中で、滞在型・体験型の観光を志向し、観光消費額の引き上げと市民が利益を享受できるシステムの構築が求められています。

次の施策に取り組みます

1　知恵を活かした戦略の設定

そのために

蓄積された資源を掘り起こし、有効に活用するためには、人々の「知恵」が必要であり、内外の知恵を出し・集め・使うことで、新たな付加価値を生み出します。

（1）農業自立振興プロジェクトの推進

“農業による定住社会の復活”を目標として、農業に関わる人・物・知恵を含めたすべての資源や力を活用するとともに、幅広い連携と協働によって、継続的・安定的な収入を得ることのできる農業の再構築に取り組みます。

（2）木質バイオマス活用プロジェクトの設定

かつて薪炭として利用された雑木・間伐材等の木質バイオマスは、現在※カーボンニュートラルのエネルギー源として注目されており、加えて熱源利用のペレット加工やエタノールの製造など、付加価値を高める新たな技術も研究・開発が進んでいます。

本市においては、市域の84.2%を森林が占めているものの、里山の荒廃や林業の低迷が顕著となっており、木質バイオマス活用プロジェクトを設定し、新エネルギーへの活用を前提とした新産業の創出、優良な地域木材の需要拡大による林業の再生、さらには美しい里山環境の復活に取り組みます。

整備されたほ場

ペレットストーブ

※　カーボンニュートラルとは、植物のように光合成の過程で二酸化炭素を吸収するため、燃焼による二酸化炭素の新たな増加要因にならない性質のこと。

2　来訪者へ感動を与える戦略の設定

そのために

“感動こそが人を動かす原動力”であることを再認識し、本市を訪れる人々に多くの感動と癒しを与える「自然と共生する日々の営み」を取り戻すとともに、その暮らしや文化を「地域の光」として示し・伝えることで、心引かれる※憧憬（しょうけい）の地の構築をめざします。

（1）観光振興・定住促進プロジェクトの設定

美しい自然に囲まれ、生活文化に彩られた暮らしは、人々の羨望意識を刺激し、今後も、その地を訪れたい、その地に暮らしたいと思う人の増加が見込まれています。

観光振興・定住促進プロジェクトを設定し、現状と課題、その要因を詳細に分析する中で、産業として成立する観光事業、さらには定住人口の増加に取り組みます。

目標指標

指標項目	単位	現状（H17）	目標（H27）	備考
納税義務者１人あたりの所得金額（公的年金等にかかる雑所得・納税義務者を除く。総務部税務課資料）	千円	2,842	3,126	市町村民税等の納税義務者等に関する調査 現状値の 10%増

お通り

観光りんご園

※　憧憬とは、あこがれること。あこがれの気持ちのこと。